

由是始起大八洲國之號焉

〔日本書紀纂疏<sup>上二</sup>〕越洲者彼地有坂名曰角鹿行人必踰此坂入越絕故名曰越也後分爲北陸五國今三越及加賀能登是也

〔古事記<sup>上</sup>〕此八千矛神將婚高志國之沼河比賣幸行之時到其沼河比賣之家歌曰夜知富許能迦微能美許登波夜斯麻久爾都麻麻岐迦泥氏登富登富斯故志能久邇邇佐加志賣遠阿理登岐加志氏

略○下

〔古事記傳<sup>十一</sup>〕高志國は越國なり出雲國神門郡なる古志には非ず後に越前加賀能登越中越後など分れつ

れども歌などにはなほなべて越とよむなりさて此國名は越後國に古志郡あれば他の例に

其より出たるにや名義は知がたし山を越て行國なる故の名と云はひがごととなり若らば古

志は令物越を云なれば我と物との異あり今世に我こと山川を古須と云は誤なり古さる  
ことなし又書紀神代卷に八島の一を越洲とあるを或説に蝦夷地と云といひ越國は其へ往  
來ふ道なる故の名と云もいたく強説なり

〔古事記<sup>中</sup>〕此之御世大毘古命者遣高志道其子建沼河別命者遣東方十二道而令和平其麻都漏

波奴人等

〔釋日本紀<sup>述十</sup>〕以七掬脛爲膳夫

越後國風土記曰美麻紀天皇崇御世越國有人名八掬脛其脛長八掬多力太其屬類多

〔日本書紀<sup>七</sup>〕四十年十月日本武尊曰蝦夷凶首成伏其辜唯信濃國越國頗未從化中於是分道

遣吉備武彥於越國令鑿察其地形嶮易及人民順不

〔令義解<sup>二</sup>〕凡新附戶皆取保證略本問元由知非逃亡詐冒然後聽之其先有兩貫者從本國爲定註

唯大宰部內及三越陸奧石城石背等國者從見住爲定略下

〔地勢提要<sup>乾</sup>〕各國經緯度附里程

位置